

【夏休みを終えて】

「もう終わってしまったの?」「はやく友だちに会いたかった」・・・子どもたちはいろいろな思いを持って登校してきたのでしょうか。長い休みの後でも、子どもたちは学校の生活のリズムを忘れることなく、頑張っています。

8月25日の朝会では、北京オリンピックに出場した選手たちが、それぞれの競技が終わったあとに「これまで自分を支えてくれた人たち、応援してくれた人たちに感謝します」という「感謝」ということばを多く使っていたことを話しました。オリンピックに出場するから特別ということではなく、どんな人でも自分の毎日の生活において、必ず応援してくれる人たち、支えてくれる人たちがいるということに気づき、そして感謝する心を持てるようになってほしいと願っています。

また、子どもたちには「みんなの周りには、一緒に考え、悩み、喜んでくれる人が必ずいます。先生方もそういう人になれるように頑張ります。」と伝えました。

【算数のお手伝い】

私が楽しみにしている仕事の一つに、運動会練習の時期の週1回の6年生の算数の授業のお手伝い(補助教員)があります。子どもと一緒に教室にいて自分が小学校の教員の一員であることを実感でき、またそこで課題に真剣に取り組む子どもたちの姿を見てるととてもうれしくなります。

先日は「場合の数(順列・組み合わせ)」の勉強でした。5チームが総あたりの試合をすると全部で何試合になりますか? こういう一つの課題に対しても、子どもたちの思いつきはさまざま、私が予想していた考え方以外にもいくつもの答えの導き方を発表してくれました。当然5チームで考えることができれば、次は「もっとチームが多かったらどうなるだろう?」という疑問を持つのは子どもたちの素晴らしいところです。また、5つのお菓子から好きなものを2つ選ぶとき、その選び方は何通り?と問いかければ、お菓子の問題ですから一層子どもたちの目は輝きます。授業の後に、「今日はいろいろな考え方ができて楽しかった」とある子どもが言っていました。それだけ授業に集中できたということなのでしょう。

6年生の算数の担当の先生の授業準備のノートには、その時間に子どもたちと学習することが丁寧に書かれていて、そのノートからは教科の指導に対する強い熱意を感じます。

また、授業の準備をこうやってしっかりすることが桐光学園小学校では当たり前のことになっていることを嬉しく思っています。

【せせらぎで】

学校の中で子どもたちに人気がある場所の一つにせせらぎがあります。規模は小さいですが、様々な生き物、水生植物が見られ、休み時間になると虫や魚が好きな子どもたちにとってはまるで夢の世界のような所です。エビというお寿司屋さんで食べるようなものを想像してしまいがちですが、せせらぎにいるエビは小さく、体は透き通った色をしています。ザリガニ、ヤゴなどもいて、それぞれの体の特徴などを手にとって観察している子どもたちは、まるでせせらぎ博士とでも言えそうです。他の遊びに夢中になっている子どもたちも同じですが、夢中になって何かに取り組んでいるときの目の輝きがいつまでも素敵にままでいてほしいものです。

【細かいチェック】

2年生が一生懸命に漢字の練習をしていました。たまたま授業中の教室に入ったときの光景です。それを見て「こんなにたくさんの漢字をもう習ったの?」と口に出しそうになりました。ご存知のように小学校で学習する漢字はとても多いのですが、子どもたちが一つひとつそれらの漢字を書けるようになっていくことに感心しました。よく見ると、「ちょっと違うな」と思えるような字を書いている子もいます。先生たちは子どもたちが書いた字を見て、間違っている字について個別に指導しなければなりません。これは時間のかかる大変な仕事です。どうりで夜遅くまで漢字のプリントなどとにらめっこをしているわけです。

【上級生になると会話が上手になる】

休み時間に降り始めた突然の雨で遊び場を失ってしまった6年生が数名校長室にやってきました。「何かお話ししましょう」とさすがに低学年の子たちとは一味違うことを言いながら入ってはきたものの、結局は友だちとの会話を楽しむだけ。私の存在は無に等しいものでした。それでも、その会話を聞いているとこちらも楽しい気持ちになってきました。子どもたちの会話の中に見られるのは「思いやり」です。それぞれが友だちの話を聞くことを大切にしています。友だちの話をよく聞いて、それに対する自分の意見を伝える。このように会話の基本がしだいに身についてくるのだなとうれしく思う時間でした。

募集活動（入試）情報

今年度から、小学校入試の日程を神奈川の私立小学校入試の解禁日に合わせました。また、保護者面接も事前に行うことにしました。他校との併願が困難になったこともあり、志願者が減少することになりました。併願による志願者の確保という段階から、桐光を第一希望とする受験者が集まる入試に変わっていく第一段階であると考えておりますので、在校生の保護者の皆様には、今年度の志願者の減少についてご心配をされることのないようにしてください。